

ウムイⅡ 7月号

「て・ま・き・ず・し」の励行を！

狩俣中学校 学校通信 Vol. 4

発行日：令和3年7月8日（木）

発行者：校長 平良 満洋

やっと梅雨明け宣言がありました。糸満のハーリー一鐘が鳴ると梅雨明けだと思っていたのに、今年は梅雨が少々長すぎた気がします。その後の30度越えの日々。窓越しに聞こえる蝉の鳴き声は、暑さ指数をさらに押し上げている気がします。一方で、校内をひらひらとゆったり舞うオオゴマグラを観ていると、心まで落ち着き暑さも少し和らぎます。

さて、早いもので21日水曜日からは夏休みです。私たち大人は、よく「子どものために」といいますが、都合良く「仕事だからしかたない」「つきあいだから仕方ない」と風見鶏します。そして、誤解を恐れずに言えば今回の新型コロナはまさに「大人が子ども達に迷惑をかけている典型的な例」だと思います。是非「コロナに罹患したら子どもが大変だから、夜のつきあいをセーブしているさあ」と風見鶏して欲しいですね。そのようなことも踏まえて、保護者の皆さんに提案があります。それこそ「コロナ」を逆手に取り、既に経験済みとは存じますが、再度「家族だけの団らん」「家族だけのBBQ」「我が家の大掃除」などをこの夏休みに企画してみてもいい提案です。波の音を聞きながら、夜風に吹かれながら、子どもが今好きなアーティスト、マイブーム（”映え”って言うのかなあ・・・）、将来の夢、あるいは幼い頃の思い出や保護者自身の中学生時代の成功談や失敗談、はたまた武勇伝などをゆっくりと語り合い、笑い合って家族の絆を深めて欲しいと考えています。

ちなみに、ある研究によれば「子どもと親と一緒に過ごせる時間」は、平均余命年数から現在の年齢を引いた年数を、日数に置き換えた数になるとのことです。例えば、現在43才ならば、2019年の統計では、日本人の平均余命は男性81才、女性が87才ですので、その平均余命から、自分の年齢を引いた年数を日数に置き換えた数（81才-43才=38才。38才なので、子供と親と一緒に過ごせる時間は38日）となります。あくまでも、統計学上のざっくりとした計算ですが、「子供との時間を大切にしないといけないな」と考える目安にはなるかと思っています。そういったことも踏まえての先ほどの提案であり、11日からの学校閉庁期間と20日からの旧盆期間は、部活動も完全休とし家庭団楽の時間と家庭学習の時間を確保したいと考えています。

また、以前からアナウンスしていた「8月16日から20日までの琉大医学科の学生を招いてたサマースクール」は、「中止」となりました。手を尽くし調整をしたのですが、非常事態宣言の8月までの延長や変異株侵入の際の統計データの解析なども勘案した結果、現状では派遣学生や受講生徒の健康を完全に担保できないとの結論に達し、非常に残念ですが「中止」と致しました。保護者の皆様には、旧盆の週ということで事前調整をお願いしていただけに、大変申し訳なく存じます。その期間は、じんぶん週間（学びの週間）を設定し、学校開放して夏休みの宿題等の自主学習期間としたいと考えていますので、よろしくお願い致します。

最後になりましたが、夏季休業期間中の家庭学習への声かけ、生活指導や健康観察などを、よろしくお願い致します。特に熱中症そして新型コロナ感染症などに罹患しないよう、「て・ま・き・ず・しの励行」指導もお願い致します。そして8月27日には、全員が笑顔で登校して欲しいと願っています。

学校生活の様子

生徒会専門部及び地域学習会の様子



定着テスト報告会



台湾の長榮大学との交流会（長榮大学やタンザニアの生徒とネットを使ってオンライン交流）



授業参観の様子



七夕まつり（竹は、PTA会員のシンザトユウスケさんに提供していただきました）



番組に出演された関西大学 社会学部の安田時男教授がお話下さったものです。

まずは前提となる事項をまとめておきます。

1年間で親と会う平均日数 = 6日 (日本版総合的社会調査2006年調査)

1日に親と顔を合わせる平均時間 = 4時間 (平成23年社会生活基準調査)

1年で親と過ごす時間 = 1日分 (6日間×4時間)

では、これに親の年齢と自分の年齢の条件を考慮するとどうなるかと言えば、次の数式で、親とあと何日過ごせるかを出せるそうです。

父親との場合 (X = 父の年齢)

1日 × (X² × 0.009 - X × 1.97 + 109.3)

母親との場合 (X = 母の年齢)

1日 × (X² × 0.009 × X × 2.09 + 121.1)

少し難しい計算ですが、要するに、親が生きる残り年数(平均余命)が、ほぼ親と過ごせる残り日数という目安となるとのこと。なので、平均余命が残り13年の親を持つ人は、13日になるそうです。

一方、我が子とはいったいどのくらい一緒に過ごせるのでしょうか。

一緒に過ごせる時間の全体を100%として、子どもの成長とともにどのくらい過ぎたかを見ていくと、幼稚園入園児には18%が過ぎ、幼稚園卒園児には32%、小学校卒業時は55%、高校卒業の頃には73%が過ぎてしまっているそうです。

お互い大人になってしまうと、一緒に過ごす時間は減るばかりですが、本当は限られた時間の中、顔を合わせているわけです。だからこそ、いい時間にしたいですね。少し回数を増やしてみる温かな気持ちにもなるかもしれません。